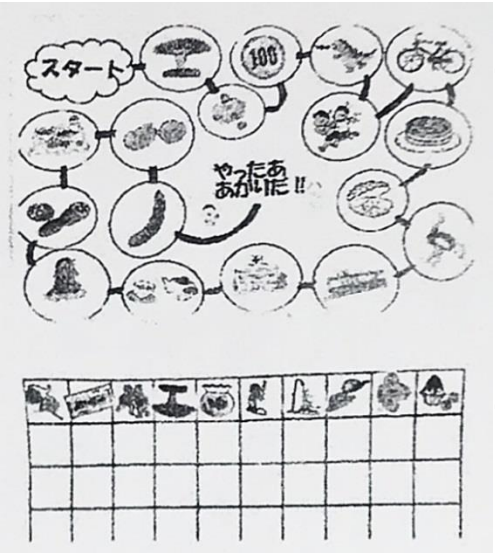
大項目	ことばの基礎
小項目	音韻認識
タイトル （教材名）	すごろく
目的 身につけてほしい力	音韻認識を高める。 ひらがな学習を楽しんで行う。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	 ・イラストを用いたすごろくを作成する。 ・長音、促音、拗促音など特殊音節ごとにわけて作成する、またはランダムにするなど、目的に合わせてことば（イラスト）を選ぶ。 ・裏面にすごろくで用いたイラストのことばを書くスペースを作る。
使用方法	・３～５人くらいで実施する。 ・すごろくは１枚のシートで行うが、人数分の枚数を用意しておく。（特殊音節のことばを書く活動があるため） ・一般的なすごろくと同じように、サイコロを振って出た数だけ進む。 ・止まったところで、サイコロを振った児童生徒が特殊音節を動作化しながら（促音は手をグーの形にするなど、参考文献を参照）イラストのことばを言う。 ・他のメンバーも一緒に動作化しながら言う。 ・何グループかあるときに、早く終わったグループは裏面の特殊音節のひらがなを書く練習をする。 ・あるいは、すごろくの用紙を各自持ち帰り、裏面を家で書いてくるなどしてもよい。
その他	・ひらがなの聴写テストの結果により抽出された児童生徒が夏休みのひらがな学習に参加した。その学習会で、動作化、プリント学習をするなどのいくつかの内容のひとつに、このすごろくを行った。 ・時間にして１０～１５分程度で、その日によっては、参加者が集まるまでの待ち時間に行うこともあった。 ・参考文献　「多層指導モデル MIM　読みのアセスメント・指導パッケージ」（海津亜希子、学研、2010 年）